圓明

令和五年　夏号（第一二〇号）

大本山 相国寺
相国会本部

相国寺御用達

京名菓 雲龍

雲龍は、俵屋吉富の七代目店主が相国寺所蔵の「雲龍図」（狩野洞春筆）に感銘を受け、うねる雲間を飛翔する力強い龍の姿を表現し創作した一世の名菓です。
大粒の丹波大納言小豆をはじめ、吟味を重ねた最高級の素材を用い、現在も変わらず、熟練された職人の手で、一本一本丁寧にお作りいたしております。
大切な方への心を込めた贈り物に、大切な方への心を込めた贈り物に、京名菓 雲龍をどうぞ…。

京菓子司 俵屋吉富

本店　京都市上京区室町通上立売上ル
電話 (075) 432-2211(代)

烏丸店　京都市上京区烏丸通上立売上ル
電話 (075) 432-3101(代)

まるにくん
© 2023相国寺

◆表紙解説

年中行事

六月十七日「観音懺法会」の準備が整った相国寺方丈

「白衣観音像（吉山明兆筆）」を中心に、四年ぶりに方丈に掛けられた伊藤若冲筆「動植綵絵（複製画）」が室内を取り囲み、荘厳な雰囲気につつまれ、あとは法要開始を待つのみとなった。若冲が画いた鳥虫魚貝、花卉草木は観音菩薩の化身として、そのすべてに仏心が宿っている。

撮影◎柴田明蘭

目次

中国佛教協会ご一行　相国寺表敬訪問 …… 2
大分県立美術館「大本山相国寺と金閣・銀閣の名宝」展が開催 …… 4
相国寺消防設備講習、救命講習 …… 6
菓子歳時記㉔「夏のお菓子」……京菓子司　俵屋吉富　店主　石原義清 …… 8
相国寺を彩る樹木〈特別編〉波紋 ……植昭　長岡造園　長岡秀晃 …… 10
相国寺の今昔　一枚の写真から　相国寺に残るガラス乾板⑥「放生池・蓮」 …… 11
御挨拶 ……宗務総長　佐分宗順 …… 12
「特別寄稿」逸見昌経公生誕五百年祭 ……園松寺住職　本田真人 …… 16
「円明法話」現代の住職になって ……善應寺住職　五十嵐真吾 …… 20
「ややがわろたら」……演劇塾　長田学舎　梶田明子 …… 22
本山だより …… 31
坐禅会のご案内 …… 42
教区だより …… 44
教化活動委員会活動報告 ……教化活動委員会委員長　佐分宗順 …… 56
相国寺史編纂室だより …… 60
第27回「相国会本部研修会」開催のお知らせ …… 76
相国寺 秋の特別拝観 …… 77
北山だより …… 78
東山だより …… 79
承天閣だより「禅寺に伝わるものがたり」展 …… 80
「若冲と応挙」展 …… 81
宝物拝見「七難七福図巻　円山応挙筆」 …… 82
心のすがた …… 84

暑中お見舞い申し上げます

相国会総裁　有馬頼底
副総裁　佐分宗順
会長　松井八束穂
本部長　江上正道
令和五年 盛夏

新内局

管　有馬頼底
承天閣美術館名誉館長
宗務総長　豊光寺住職　佐分宗順
承天閣美術館館長
庶務部長　宗務総長兼任　佐分宗順
財務部長　慈照院副住職　久山哲永
法務部執事
教学部長　眞如寺住職　江上正道
参務　光照寺住職　荒木文紹
財務・庶務部員　養源院副住職　平塚景山
教学・庶務部員　瑞春院副住職　須賀集信
承天閣美術館事務局長　是心寺住職　和田賢明
承天閣美術館参事　林光院副住職　澤宗秀
鹿苑寺執事長　普廣院住職　山木雅晶
鹿苑寺執事　長得院副住職　有浦宗健
慈照寺執事長　林光院住職　澤宗泰
慈照寺執事　豊光寺副住職　佐分昭文

宗議会議員

第一教区　慈照院住職　久山隆昭
第二教区　大應寺住職　久山弘祐
第三教区　見性寺住職　梶谷承忍
副議長　第四教区　正善寺住職　頴川孝正
第四教区　眞乗寺住職　木下雅教
第五教区　富田寺住職　加藤文保
議長　第六教区　龍源寺住職　田中恵山

宗務支所正副長

第一教区　林光院住職（正）　澤宗泰
大光明寺住職（副）　矢野謙堂
第二教区　大應寺住職（正）　久山弘祐
第三教区　本派宗務総長兼任　佐分宗順
第四教区　眞乗寺住職（正）　木下雅教
園松寺住職（副）　本田真人
第五教区　富田寺住職（正）　加藤文保
第六教区　龍源寺住職（正）　田中恵山

中国佛教協会ご一行

相国寺表敬訪問

令和五年六月七日

（39ページ参照）

撮影：柴田明蘭

有馬管長を囲む両国の僧侶、関係者

法堂で諷経する僧侶

歓迎交流会で小林老大師の挨拶を受ける一行

友好記念鐘を撞く有馬管長と宗性副会長

中国佛教協会宗性副会長より有馬管長90歳記念の墨蹟を拝受

有馬管長の色紙を送る小林老大師

大分県立美術館
「大本山相国寺と金閣・銀閣の名宝」展が開催
二〇二二年十一月二十六日～二〇二三年一月二十二日

内覧会に先立って行われた法要

内覧会関係者鑑賞の様子

内覧会関係者鑑賞の様子

展示室の様子
（鹿苑寺大書院旧障壁画）

展示室の様子
（萩芒図屏風　相国寺蔵　他）

展示室の様子
（芭蕉図　大光明寺蔵　他）

相国寺消防設備講習、救命講習

令和五年一月二十四日

（31ページに関連記事）

講習前に訓示をする佐分宗務総長

消防署員より説明を受ける参加者

消火栓の取り扱い方法を学ぶ

身近な消火器の取り扱い方法も確認

各班に分かれAEDの実践講習を行う

菓子歳時記 四

「夏のお菓子」

京菓子司 俵屋吉富 店主 石原義清

祇園祭が一段落すると京都は本格的な大暑となります。私自身も俵屋吉富の小川店に行ってかき氷を食べるのがいいなと思いますが、その暑い中での御茶席でどういう工夫をして気の利いたお菓子をご用意するのかを考えるのもまた菓子屋冥利に尽きると思いチャレンジしています。

水羊羹はさらっとした食感で夏にはのど越しのいいお菓子ですが、それを涼やかに風情のある青竹の節を活かしてお作りする竹流し水羊羹は夏の御茶席にいい涼感をもたらせてくれると思います。籠に竹笹を敷いて少し霧吹きで水打ちしてお出しするとなお涼感が増します。お客様にお出しする前に竹の節にきりで羊羹が竹を抜ける空気穴を作っておくのが寛容です。

今年の俵屋吉富夏のパンフレット表紙のために創作したのが、「しゃんぼん玉」というお菓子です。何か新しいお菓子をと白い軽羹に色々な色の水玉を浮かせることで少し可愛らしい夏のお菓子となりました。

水羊羹

しゃぼん玉

「夏簾」は筋の入ったガラスの上に寒天を流し込んで白あんに巻いたお菓子です。寒天の透きとおった透明感を白あんに巻き込むことでこちらも見た目の涼感を演出しています。少し冷やしてお客様にお出しするのもいいかもしれません。

「キューブ」と名付けたお菓子は元々七代目の石原留治郎が寒天に餡玉を浮かせたお菓子を考案していたのを十代目となる息子がアレンジして色々な色の餡にして仕上げました。

次代を超えて少し工夫することで今の楽しみ方をすればいいと思います。御茶席でお菓子鉢に色とりどりのお菓子が盛られてきたらいいサプライズになると想像しても笑顔になるんではないでしょうか。

暑い夏には暑い夏なりの楽しみ方をお菓子でもできますので、ぜひご参考にしてみてください。お菓子でいい夏になりますように。

キューブ

夏簾

相国寺を彩る樹木《特別編》

「波紋」

植昭　長岡造園　長岡秀晃

「本来無一物」を表現した表方丈庭園と、松やモミジの植栽を配した開山堂庭園。

雰囲気は全く違う両庭園ですが、どちらにも白砂があり波紋が描かれています。今回は、さまざまなお寺で目にする「波紋」の描き方をご紹介します。

最初に、掃除と除草を行います。白砂の中では小さな草やゴミも目立つのでしっかり取り去ることが重要です。次に、グラウンド整備で使う物と似たトンボで白砂を平らに均します。平らに均すことで、波紋を描くための白い「キャンバス」が完成します。

最後に、波紋描きを使って線を描いていきます。波紋描きはトンボに鉄の歯をつけたものや、全て木で出来たものなど様々な形があります。弊社で使用しているのは鉄の歯を付けたタイプのものです。少し自重を重くすることで白砂への食いつきがよく、しっかりとした線を描けるようになっています。線を描くときは直線を描いてから曲線を描きます。直線はすぐに歪んでしまうため難易度が高く、雑念をなくして集中して作業を行う必要があります。

表方丈・開山堂ともに荘厳な建物を引き立てるように、奇をてらうことなくシンプルな模様で仕上げてあります。基本は直線のみで、景石や築山の周りは打ち寄せる波を表現した曲線を描いています。

相国寺の庭園の波紋は毎日描き直すものではありません。拝観等の際に波紋を描く作業を見かけたら、珍しいものが見られたと思って少し足を止めてご覧になってみてください。

波紋描き作業

豆知識

晴れた日は太陽光が白砂に反射して白さが増して見えます。描いた線が見にくくなるため、晴れた日の方が曇りの日よりも波紋を描く難易度が上がります。中でも真夏の晴れた日は光も強く、本当に難しいです。

今昔 相国寺の

一枚の写真から

相国寺に残るガラス乾板⑥

「放生池（ほうじょうち）・蓮」

解説◎柴田明蘭

六回目は、総門を入って直ぐ左手（前号で紹介した勅使門の内側）に広がり六月から七月にかけて葉を増やし、花を咲かす「放生池」の蓮の写真です。昔の写真を見ると池一面に蓮の葉が生い茂っていますが、今は蓮を鉢に入れたものを池の各所にバランス良くおいて、蓮が増殖して池を覆わないように管理されています。

これが相国寺の放生池!?と疑いたくなるぐらい蓮の葉が鬱蒼と池を覆い、今回の再現撮影は池のどの方向から撮影されたのかを特定するのが非常に困難でした。

撮影された場所を特定するのに最近話題のAI（人工知能）処理によって、カラー画像処理を施した結果、白黒写真では気付かなかった池の中央に架かる天界橋の一部や普廣院の南端外壁らしきものを確認（写真赤丸印）することができ、当時の撮影場所を特定することができました。

蓮は自然増殖しないように鉢に入れられた状態で池に沈められて管理されているので、花が咲く時期になっても天界橋をや水面を覆うことは無く寺の景観を保ち、訪れる人に涼を誘います。

御挨拶

宗務総長　佐分宗順

相国寺派寺院各位、檀信徒及び相国会会員の皆様、暑中お見舞い申し上げます。

さて、私は本年四月末をもって三期目の宗務総長としての任期を無事終えることができました。これまで私を支えてくださった寺務局をはじめ、相国寺派、関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。それに先立つ三月の定期宗会でさらに引き続き四期目の宗務総長に選出いただきました。又、承天閣美術館館長、慈照寺住職の要職も合わせて兼務することとなりました。本来なら次世代へと引き継ぐべき要職ですが、この三年間停滞していた諸活動を滞りなく引き継ぐためにも、やり残した諸施策の完遂は私の責任と考え、その機会を与えられたことに感謝し、全力で取り組んで参ります。

ここ三年間余りにわたり、猛威を振るった新型コロナウイルス感染症は、私たちの社会生活や経済活動に大きな制限と停滞をもたらしました。我が相国寺においても、大きく活動が制限され、計画していた諸事業も思うように進まず、やり残したことに対して力及ばず忸怩たる思いです。

今年に入りようやく収束の兆しが見え始め、本年五月から五類感染症へとその対応が見直され、感染症対策は緩和されることになりました。ようやく世界は通常の活動が再開され始めました。相国寺派の活動においても、縮小傾向にあった諸行事を再開し、諸事業も完成に向けて取り組んで参ります。

この三年間の経験で危機管理の重要性を痛感しましたが、世界はさらなる感染症や紛争の危機の可能性を孕んでおり、一難去って安心というわけには参りません。想像力と意識をさらに深めこれから起こりうる事態に対して危機管理に備えなければなりません。

この三年間のコロナ禍で、その必要性が顕著になってきたリモート会議の推進による業務の効率化や、財務諸表や様々な資料のデジタル化による不正な取り扱いの防止、データの紛失や意図的な廃棄、改ざんの防止、キャッシュレス決済の普及等へ対応など、信教の自由や政教分離、宗教の尊厳を担保した上でこれら社会変化に対応すべく具体的に取り組んで参ります。

また承天閣美術館においては来年創建四十周年を迎えるに当たり、今まで取り組んできたデータベースの完成と宝物のＲＦＩＤ（Radio Frequency Identification　電波などにより非接触で情報を読み書きするシステム）による収蔵庫出入の管理システムの完成が間近です。そして承天閣所蔵品のデータベースの整理をお願いした高橋範子相国寺学芸統括には、承天閣美術館所蔵什物群データベースの構造とその特質、歴史をまとめて発表していただく予定です。これが完成すれば、有馬頼底管長から託された承天閣美術館の整理と引き継ぎという、重要な責任の一端を果たすことができます。

さらに相国寺史編纂室における史料（三山および塔頭の古文書類およびその他の什物）のデータベースも統一的に管理し、研究を発展的に進めるために利用の便宜を図りたいと考えております。

託された私の任期中に計画した業務が実現できるよう力を注いで参りますので引き続き皆様のさらなるご支援をお願いする次第です。

猛暑の中、どうかご自愛いただき、ご健勝にてご活躍されんことを祈念いたします。

ＵＲＬ　https://www.shokoku-ji.jp
E-mail　kyogaku@shokoku-ji.jp（教学部）

本誌『円明』のバックナンバーについて、
平成20年夏発行の第90号以降は、
相国寺派ホームページ内でご覧いただくことが出来ます。

特別寄稿

逸見昌経公生誕五百年祭

園松寺住職　本田真人

まず、逸見昌経公生誕五百年祭及び記念行事である高浜町郷土資料館春季特別展「伊藤若冲と若狭の禅僧」開催記念講演会におきましては、関係各所の皆様にご協力賜り、厚く御礼申し上げます。

とくに大本山相国寺、承天閣美術館、第四教区若狭相国会、有馬頼底管長猊下をはじめ、大光明寺住職矢野謙堂師には、大変貴重な伊藤若冲の掛け軸を出陳いただき、さらに講演会でも高浜町文化会館ホールが満席の中、若冲と相国寺の関係についてわかりやすくお話を賜りました。厚く厚く御礼申し上げます。

「若冲と相国寺」と題して記念講演を行う矢野謙堂師

さて、逸見昌経公とはどのような人物なのか。簡単に紹介させていただきます。

逸見駿河守昌経（一五二二～一五八一）は高浜城主として高浜を治めた領主で、若狭守護武田氏に仕えた武将でした。のちに三好長慶や織田信長に仕え、天正九年（一五八一）二月二十三日に京都で行われた馬揃え（現代の軍事パレード）に織田信長の重臣であった柴田勝家や明智光秀らとともに若狭衆の一番隊として参加しております。その約一か月後に昌経は病死します。

園松寺と昌経公の関係ですが、園松寺の前身である昌福寺（一五八一）の開基で帰依を受けた永門如是（?～一六〇六・園松

開基逸見昌経公のお像

園松寺境内にある昌経公の供養塔

寺開祖）が命を受け、創建されました。残念ながら昌福寺は焼失しましたが、高浜城主佐々義勝（?～一六一四）の帰依を受けた湖岳周繁（?～一六五二・園松寺第三世）が今の地に寺地を移転させ、寺号をその地形になぞらえて中嶋山園松寺（一六〇七）と改称し、創建されました。

園松寺としましては、その遺徳を偲び毎年四月二十六日に大般若経会法要を営み、法類寺院をはじめ、縁故寺院、若狭相国会会長、法類寺院総代、園松寺檀信徒の皆様に参列して頂いております。

また、若冲との関係でございますが、本山相国寺第百十五世管長　維明周奎禅師（一七三一～一八〇八）が若冲に師事し、師弟関係を築いておりました。

維明禅師は、園松寺の檀家時岡右衛門家がご実家であり、維明禅師を通じたご縁がきっかけで若冲展を開催することになりました。

今回コロナ禍で四年間中止してございましたが、昌経公生誕約五百年という年でございましたので、毎年行っている逸見祭を生誕五百年記念祭に代えさせて頂き、今年は特別に本山より大光明寺住職矢野謙堂師、本派教学部長の眞如寺住職江上正道師、親戚にあたる慈雲院副住職中山周真師に出頭して頂き、大般若会法要を賑やかに営ませて頂きました。

大般若経を転読する僧侶

法要後に「逸見祭によせて」と題して講話をする江上教学部長

園松寺歴代和尚が脈々と伝えて来られた園松寺だけの、この特別な行事を今回わたくし未熟者が無事円成できましたのも皆様のご尽力のお陰だと思っております。

しかしながら現在、正直肩の荷が下りてホッとしております（笑）。

これからも次の世代にも受け繋いでいけるように精進致したいと思います。

逸見祭に列席した関係者各位

現代の住職になって

善應寺住職　五十嵐真吾

お初にお目にかかります。福井県おおい町の善應寺で住職を務めております、五十嵐真吾と申します。昨年二月に当山第三世を拝命させていただき、同年五月には、檀家の皆様や本山、教区の和尚様方のご協力もあって、晋山式をさせていただくこともできました。しかしながら、住職になって一年余りでまだまだ浅学非才な私の文章などを、この圓明に載せていただいていいものか、今流行りのＡＩの方がよっぽど上手く書くのではないかと思ってしまいますが、本山からのご依頼ですので、これも修行と思い、恥ずかしながら筆を取らせていただいております。

それにしても、ＡＩというＳＦ作品の中でしか聞いたことがなかったような技術が、私たち一般人が使える程のレベルで実用化されるとは、なにやら凄い時代になったものですね。お釈迦様が菩提樹の下で悟りを開かれてから二千五百年余り、様々な技術が加速度的に発展し、世の中は見る間に様変わりして参りました。特に情報化技術の発展は目覚ましく、テレビやインターネットを通じて世界中の出来事を瞬時に知ることができ、ＳＮＳなどによって、何千何万という人々の意見や心情を知ることができるようにもなりました。まさに、古くから神仏の力として挙げられた「千里眼」を誰もが持っているような状態です。

しかし、ニュースでは毎日のように国内外の戦争や犯罪、不祥事が取り上げられ、ＳＮＳでは他人の目を気にして評価を競い合い、挙句の果てにそのためにいわゆる「炎上」を狙って実際に迷惑な行為を行う者まで出てくる始末です。住職になって日の浅い私が言うのもどうかと思いますが、いよいよもって末法じみた世の中になってきたと感じます。

仏教においては、私たちには元々仏様のような心が備わっており、にもかかわらず苦しむのは、煩悩が塵や垢となってそれを覆い隠してしまうからだと言われております。自然に積もり、浮き出てくるものを除くだけでも難しいことですが、現代は先ほど述べたように、日々暮らしていくだけで必要以上に情報に晒され、不安を煽られる世の中です。もはや塵が積もると言うよりも、パンパンに詰まったゴミ袋が溢れんばかりに押し込められて、ゴミ屋敷のようになっているのかもしれません。仏心は奥に押し込められ、いざ掃除をしようとも、掃除道具がどこにあるかも分からない有様です。昨今心を病んでしまう方が多いのも、そうした背景があるのではないでしょうか。

しかし裏を返せば、こんな時代だからこそ、私たちのような僧侶が頑張らなければいけないと感じます。コロナ禍や昨今の宗教関連の事件によって宗教離れは更に加速してしまっておりますが、周りの目や自分の煩悩に流されないよう、自分の中の仏心と向き合う仏教の教えは、先ほどから述べている現代の状況にこそ必要だと思うのです。最早自分一人では掃除もままならない、掃除道具も見つからず、何から手を付けていいのかも分からない、そうした人々が、押し込められた仏心に少しでも近づけるよう、仏様の教えを通じて、箒の一本、塵取の一つにでもなれるように、私もまた精進してまいりたいと思います。

「ややがわろたら」

演劇塾 長田学舎
梶田明子

「さあさあ鯉のつかみどりじゃ　川に入って鯉を素手でつかまえなされ　鐘がジャンジャンと鳴るまでに、掴んだ分はすべてお前様のものじゃ」

時は江戸時代の中頃――眩しい夏の陽が照らす四条河原は、中洲を埋め尽くすように出店が並び、にぎやかな売り声があちこちから聞こえる。中でも特に威勢の良い口上が響き渡る。

「鯉は長寿を経て龍になる縁起のええ魚。また鯉は滋養もあって美味い。元気のない折には何よりの薬。さあさあ縁起の鯉のつかみどりじゃー」

鴨川の水をせきとめた即席のいけすには、大小さまざまの鯉がぴちぴちと尾を翻しながら泳いでいる。裸足になった客らは冷たい川の水に足をつけ、泳ぎ回る鯉と戯れる。

「鯉のつかみどり」は大人気の商いだ。

「わしもやるー」

口上を聞きつけた福太郎は目を輝かせ、おこうの手をぐいぐい引っぱる。「あきまへん」と言いながら、おこうも鯉に目がく

鯉のつかみどり
長田純著「町かどの藝能」より

ぎ付けだ。福太郎と一緒になっていけすを覗き込んだ。

おこうが千花屋に奉公して三月が経つ。千花屋は寺町にある組みひも屋だ。組みひもの他各種様々な糸を取りそろえ、注文を受けて自在に糸を組みあげる。昨年、大黒柱であった伊兵衛を急な病で亡くしてから、若いおかみが数人の職人と共に必死で店を切り盛りしている。

「あんた良かったなあ。末は女職人やで」女の糸組職人が幾人もいることで名の知れた千花屋に奉公することを近所の小母さんは喜んでいたが、おこうはちっとも嬉しくなかった。おこうはまだ七歳だ。貧しいおこうの家は、母親が病に伏せたことで立ちゆかなくなった。子だくさんの家族を養うため、身売り同然の奉公だった。

千花屋でのおこうの仕事は、嫡男福太郎の子守だ。四歳の福太郎はやんちゃざかりで片時もじっとしていない。どういうわけかおこうに懐き「おこうーおこうー」と呼んでは手を引っぱり、あちこち連れまわす。

「ぼんちゃんもじょうちゃんも今日はとくべつや。お代はかまへんから遊んでいき」

熱心にいけすをのぞき込む二人を見て、立ち台の上の親父が笑顔で声をかけた。二人はいそいそと裸足になると、はしゃぎ声をあげながら逃げ回る鯉を追った。

「なにえ、この生臭いのは。二人ともびしょびしょで。何して来たんどす！」

鯉と戯れたというよりは、鯉に遊ばれたという方が正しかった。いけすで転びそうになった福太郎を支え、おこうも盛大にしりもちをついた。「歩きとうない」と駄々をこねる福太郎を背負って帰ったおこうは、おかみに大目玉をくらった。

朝からの雨が昼を過ぎても降り続いている。薄暗い座敷の中央に吊ってある蚊帳の中では、福太郎がようやく寝息を立て始めた。「子守だけが仕事と違うえ」「間を惜しんでお働き」おかみの怖い顔を思い出したおこうは蚊帳からそっと出ると、音を立てないように掃除を始めた。頬につたう汗を肩口の袖で拭いながら、丁寧に座敷の隅々まで拭いていく。最後は、床の間の大きな這う児人形だ。這い這いの赤ん坊をかたどったその土人形は、福太郎のため特別に作らせたものだという。なめらかな白い肌に、愛らしくぷくぷくした小さな手足。切れ長の目を細めて嬉しそうに前を見ている。蚊帳の中で寝息を立てている福太郎の顔とそっくりだ。ふと、故郷にいる幼い弟妹の顔が浮かん

這う児人形

だ。あの子らは今もお腹を空かせてるだろうか。おらを売ったお金で、少しでも美味いもの食べてるだろうか…。おこうは歯を食いしばった。おらたちは、こんな人形買うてもらえんかった…。なに不自由なく暮らす福太郎が憎らしくなってくる。思わず人形を拭く手に力が入った。

突然、固いはずの人形の肌がくにゃっとやわらかくくぼんだ。驚いて人形を取り落とすと、畳の上に転がった人形が、ぎこちなく動き出した。あまりの出来事に動けないでいるおこうの目の前で人形はゆっくり起き上がり、細めていた目をぱかっと大きく見開いた。

ひぃぃぃー

遠のいていく意識の中で、きゃははという楽しそうな笑い声が聞こえた。

「おこう、おこう、…大丈夫どすか」

ゆさゆさと揺さぶられておこうは気がついた。目の前におかみの顔があった。おこうはおかみに取りすがり、たった今起こった恐ろしい出来事を必死に訴えた。が、おかみは疲れた顔でため息をつき「もうええ。福太郎は私が見るさかい、部屋でお休み」と言って福太郎を抱き上げ、慌ただしく座敷を出て行った。福太郎の「おこうー」と呼ぶ声が遠くなった。

「おこう、どうしたん？　元気ないん？」

廊下を拭くおこうの後ろから、福太郎がそっと呼びかける。あの日から、這う児人形が笑って追いかけて来る夢にうなされ、おこうはげっそりとなった。顔色悪くよろよろしている様子が、福太郎は心配なのだ。

「おこう、鯉たべたら元気出る？」

「出えしまへん」

おこうは福太郎を避けるように掃除を続けた。人形とそっくりの顔を見るのが怖かった。遠くで福太郎を呼ぶ声が聞こえる。福太郎はちょっとの間迷っていたが、声の方へと駆けて行った。無心に廊下を拭いていたおこうは、例の座敷の前にいることに気づいた。胸がどくどくと早鐘を打ち、体がぶるぶる震えだした。

「おこう、おつかい頼めるかえ」

後ろから急に呼びかけられ、おこうは飛び上がった。そして「へえ！ただいま！」と叫ぶと、おつかいの用も聞かず走り出した。

店を飛び出し夢中で走っていたおこうは、やがて失敗に気付いた。恐ろしいおかみの顔が浮かんできて、おこうは泣きたくなった。すると、

「ややが泣いたら　這う児であやし　ややがわろたら　這う児とあぼしょ

這う児は　ややの身代わり児」

子守唄のような、優しい唄声が聞こえた。おこうはその声に引き寄せられた。軒下に広げられた筵の上に、とても大きな人が座っていた。芸商人のお大だ。お

大は可愛らしい小間物や人形を商う、町内で人気の商人だ。その名の通り大きな女子だった。大人でも見上げるような大きな体を窮屈そうに折り曲げ、たくさんの商品を並べた筵の奥にかしこまって正座している。お大は陰からのぞくおこうを見つけると笑顔になり「おこうちゃん、おいでやす」と話しかけた。おこうは思わずよろよろと踏み出し、筵の前に座り込んだ。とたんに涙がとまらなくなった。お大は優しく頷きながら、つたないおこうの話を最後まで聞くと、

「怖わあて、心細おしたなあ…。けど、大丈夫どす。這う児人形はお子が大好きなんえ。笑うたのも、おこうちゃんに元気になってほしいてしたことどす。それになぁ、這う児さんは特別大好きな子にだけ、笑いかけはるんどすえ」

こう言ってお大は、いたずらっぽい笑顔になった。

おこうはそっと座敷に入ってみた。恐る恐る床の間を見ると、前を向いているはずの人形がぐいっと首を曲げてこちらを見ている。おこうは腰が抜けたが、その時、福太郎の声が脳裏に響いた。心細そうに呼ぶ声だ。すると、人形の顔が突然泣き顔に変わり、両手でばたばたともがき始めた。おこうは怖さを忘れ人形に見入った。おらに何か伝えようとしてる――

「鯉たべたら元気でる？」

福太郎の言葉が甦り、おこうははっとなった。ここ数日の雨で鴨川は水が増し

ている。福太郎がもし川に行っていたら…

店表で「ぼっちゃん！どこどす！」「ぼっちゃんがいてへんのどす！」と騒ぐ声が聞こえた。おこうは駆け出した。

鴨川は出店でにぎわっていた中洲も消えて、茶色く濁った水がとうとうと流れていた。その流れにのみ込まれまいと、もがく小さな身体が見えた。

「ぼっちゃん！」

おこうは夢中で川に入り福太郎を追った。精一杯に伸ばした指の先が、やっと福太郎の着物をつかんだ。そのとたん、足が深みにはまった。まわりには掴むものも無い。おこうは抱きついてくる福太郎をしっかり抱えたまま、力の限り手足を動かした。

その時、おこうはものすごい力で川からぐいと引っぱり上げられた。見あげると、お大がいた。お大は福太郎を小脇にかかえ、反対側の手でおこうの襟首をつかみ、力強く仁王立ちになっていた。

河原におろしてもらった福太郎が「おこうー」と抱きついてきた。おこうは福太郎の背中を優しくなでながら「這う児が、這う児が教えてくれたんや」とお大に訴えた。お大は深く頷いて「おこうちゃん、えろおしたなあ」二人まとめてぎゅうと抱きしめてくれた。おこうはお大のふくよかな胸に思いきり顔をうずめた。懐かしいおっかさんの匂いがした――

【おさだ塾自主公演のお知らせ】

『町かどの藝能』その47

江戸時代―「都」であった京の町なかは、全国から上ってきた都見物の旅人でにぎわっていました。己の持ち芸でもって商いをする芸商人にとって、京の町かど、四条河原や社寺の境内は、京の町衆や旅人をお客さんにしての檜舞台でした。

華麗な芸の華が日々咲き競っていた京の町かどで、互いに研鑽し、しのぎを削った芸商人たち―

そんな芸商人の芸と商いを、劇場でごゆっくりお楽しみください。

令和五年十一月三日（金・祝）
四日（土）
五日（日）

於・京都府立文化芸術会館　三階和室

お問い合わせ／おさだ塾
TEL・FAX（〇七五）四三一―六六八一
ホームページ／http://www.osada-jyuku.com

※昨年皆様のお力添えの御陰で自主公演『町かどの藝能』公演を再開させて頂きました。皆様への感謝の気持ちを心にこれからも一歩ずつ歩んで参ります。今後ともよろしくお願いいたします。

本山だより（令和四年十一月～令和五年六月）

○鹿苑寺開山忌

十一月二十一日、鹿苑寺（山木雅晶執事長）に於いて、開山忌、続いて開基足利義満公の諷経が厳修された。有馬管長を導師に、小林玄徳老大師、佐分宗務総長はじめ相国寺一山ならびに縁故寺院尊宿により諷経がなされた。

昨年までコロナ禍により行事が縮小されていたため、三年ぶりの一山揃っての開山忌出頭となった。

○本山消防設備講習、救命講習

一月二十四日、相国寺承天閣美術館二階講堂に於いて、京都市消防局上京消防署の指導により、消防設備講習並びに救命講習が実施された。模擬消火器や屋内消火栓を使用しての講習を行い、実際の火事の際どう動くべきかを学んだ。

続いて救命講習として、現状確認や心肺蘇生法、AEDの取り扱い方等、要救護者への対処法を学習した。

当日は鹿苑寺、慈照寺職員も参加し、三山あわせて防火、防災意識の向上を図った。

（巻頭カラー6ページに関連記事）

○本山涅槃会

二月十五日、本山法堂に於いて、涅槃会法要が厳修された。

涅槃会とは、お釈迦様の亡くなられた日に行われる法要で、当日はお釈迦様の亡くなられた際に、様々な生き物が集い嘆き悲しんだとの故事にちなんだ、大きな涅槃図の掛け軸が掛けられた。

○臨黄教化研究会

二月十六、十七日、花園大学に於いて、臨黄教化研究会が開催された。昨年はコロナ禍中でオンライン開催であったが、今回は参加人数の上限はあったものの、コロナ禍以前とほぼ同様の日程であった。本派からは教区順に有浦宗健師（第一教区長得院副住職）、中山周真師（同慈雲院副住職）、阪口大航師（第二教区無礙光院副住職）、加藤幹人師（第四教区南陽寺住職）の四名が出席し、研鑽を積んだ。また開講式には佐分宗務総長が、開閉講式と各班に分かれて討論する分科会には江上教学部長が出席した。

開講式の後、横田南嶺老大師（円覚寺派管長・花園大学総長）、佐藤泰之氏（大和証券株式会社法人コンサルティング部副部長）の講演を受講した。講演後は各班に分かれ、今回のテーマである「コロナ禍の現状と未来―我々のあり方を考える―」に関して議論を行った。

○臨済宗連合各派布教師特別研修会ならびに理事会

二月二十六日より二十八日まで、天龍寺（京都市右京区）に於いて臨済宗連合各派布教団本部「布教師特別研修会」が開催され、初日の開講式と理事会には佐分宗務総長と江上教学部長が、最終日の閉講式には江上教学部長が出席した。

また研修会には、本派布教師有資格者より教区順に平塚景山師（第一教区養源院副住職）、佐々木奘堂師（第三教区天正寺住職）の二名が参加し、四年ぶりに再開された令和五年の巡教にむけて研鑽を積んだ。

○禅文化研究所理事会

三月七日、禅文化研究所理事会が開催され、佐分宗務総長と久山財務部長が出席した。

○定期宗会

三月十日、相国寺寺務棟桂芳軒に於いて、令和四年度定期宗会が開催された。各教区より登山の宗会議員、評議会議長、鹿苑寺・慈照寺各代表、内局員全員の計十六名が出席し、審議が行われた。開会前には大光明寺にて、宗会議員が管長に相見した。

当日の審議に於いて、佐分宗順師（豊光寺住職）の次期宗務総長推薦が承認され、宗制の規定により、佐分師の宗務総長続投が確定した。

宗会議員管長相見

定期宗会で議事を行う各議員と内局員

○彼岸供養法要

三月十六日、相国寺方丈に於いて、「春季彼岸供養法要」が、京都中央葬祭業組合、京都仏教会の主催にて執り行われた。コロナウイルス感染症対策として、昨年と同じく法話は行わず、方丈前に設置された焼香台にて焼香いただく形がとられた。

彼岸供養法要の会場

宮城泰年京都仏教会常務理事の弔辞の後、佐分宗務総長を導師に法要が執り行われ、昨秋からの半年間に京都市・宇治市で亡くなられた方の遺族や関係者が、故人の冥福を祈った。

○臨済宗連合各派布教団本部・布教師巡教

令和五年度の定期巡教が行われ、本派布教師の佐々木奘堂師（第三教区天正寺住職）が三月十六日、福岡県の南禅寺派一か寺を、平塚景山師（第一教区養源院副住職）が三月十九日より五日間、鹿児島県、宮崎県の相国寺派七か寺を巡教し、檀信徒へそれぞれ布教を行った。

○相国寺春季彼岸会

三月二十一日、大通院に於いて、春季彼岸会が執り行われた。

コロナ禍のため、昨年までは山内の一部和尚にて行っていたが、今回よりコロナ禍以前の人員に戻し、檀信徒の参拝も再開された。

○第四教区若狭少年研修会

令和二年よりコロナ禍のため中止されている若狭少年研修会であるが、本年も同様の理由により中止となった。

来年度は再開の見込みである。

○本山降誕会

四月八日、相国寺法堂に於いて、降誕会が執り行われた。

降誕会とは、花まつりとも呼ばれる、お釈迦様の誕生を祝う行事である。出頭僧侶は、生まれたばかりのお釈迦様を模した誕生仏像に産湯代わりの甘茶をかけ、お釈迦様と仏法の誕生を祝った。

尚、四月一日から八日にかけて、特別拝観

降誕会法要で灌仏する小林老大師

方丈にも花御堂を出し拝観者に甘茶をかけて頂いた

公開中の方丈に、誕生仏を安置し、拝観の皆様にも甘茶をかけてお釈迦様の誕生を祝っていただいた。

○前堂転位式

四月二十一日、開山堂に於いて、第二教区智蔵院（小出量堂兼務住職）徒弟の井上尊裕師の前堂転位式が挙行された。新住職として今後の活躍が期待される。

拝塔偈は次の如し。

井上尊裕師

吹上薫風躑躅妍
青々草色一心禪
萬年山内梵鐘渉
香片漂處精進專

○入制行事・入制開講式

五月一日、本山にて月例の祝聖法要の後、相国寺専門道場にて入制開講式ならびに大般若祈祷が執り行われた。開講式は、感染症対策として一山和尚の出頭人数制限をしていたが、今回より解除し執り行われた。

○慈照寺開山忌

五月二十一日、慈照寺（佐分宗順住職）では開山忌並びに開基足利義政公の諷経が厳修された。本年は好天に恵まれ、感染症対策が緩和された中、有馬頼底管長にご出頭いただいた。本山一山や関係寺院の和尚、役員ら関係者が列席した。

○相国会本部役員会

五月二十四日、本山寺務棟二階において、令和五年度相国会本部役員会が、昨年に続きオンラインも併用して開催された。

相国会本部役員会で挨拶する佐分宗務総長

令和四年度事業報告、令和四年度決算報告、令和五年度事業計画案、令和五年度「相国会本部研修会」について、令和五年度予算案の五つの議案について採決し、それぞれ承認可

管長に相見する相国会本部理事と顧問

決された。

また、本部に複数問い合わせがあった相国寺派の教義や宗風を記した『私たちの宗旨』について再発行が承認され、今年度内に発行と配布をすることとなった。

会議終了後、出席理事・顧問は大光明寺にて有馬管長と相見し、新理事の島田英明氏へ委嘱状が授与された。

当日出席の相国会理事、顧問は左記の通り。

理事		顧問	
第一教区	松井　八束穂		澤　宗泰
第二教区	波多野　外茂治		久山　弘祐
第三教区	玉倉　忠彦		梶谷　承忍
第四教区	伊藤　彰		木下　雅教
第五教区	島田　英明		加藤　文保
第六教区	工藤　義信（※）		田中　恵山

（※）オンライン参加

「相国会本部研修会」は平成三十年以来の開催が決定した。（詳細は76ページ参照）

○令和五年度　相国寺「春の特別拝観」

三月二十四日より六月四日まで、春期特別拝観として法堂・方丈・浴室を公開し、一一、五四一名の参拝があった。本年は四年ぶりの「浴室（宣明）」公開に合わせて、浴室に安置する跋陀婆羅菩薩の御朱印授与を行った。

「秋の特別拝観」は、九月二十六日（火）より十二月十日（日）まで、法堂・方丈・開山堂を公開の予定である。

拝観期間中に授与された「宣明」の御朱印

○中国佛教協会一行、相国寺ご来山

六月七日、中国佛教協会副会長の宗性法師をはじめ相国寺とも交流がある大相国寺の源野監寺や駐大阪総領事館の薛領事ほか計二十七名が、相国寺を表敬訪問され、境内の天響楼前で有馬管長、小林老大師、佐分宗務総長をはじめ本山僧侶と臨黄合議所の中川事務局長（第二教区大雲寺住職）が出迎えた。有馬管長と宗性法師が日中両相国寺友好の鐘撞きをした後、法堂で中国式の諷経をしていただいた。

承天閣美術館で「女性と仏教」展をご観覧後、二階講堂で小林老大師、佐分宗務総長の歓迎挨拶、宗性法師、薛領事の挨拶があり両国の仏教交流をはかった。（巻頭カラー2ページ参照）

大相国寺の心廣法師からの墨蹟を披露する源野監寺

法堂で諷経する中国佛教協会一行

焼香する宗性副会長

○観音懺法会「ご先祖追善供養」

六月八日より十四日まで、相国寺方丈に於いて、観音懺法会「ご先祖追善供養」が四年ぶりに行われ、期間中に伊藤若冲筆の「動植綵絵（複製画）」を公開し、多くの参拝者にご覧いただいた。

令和５年度「観音懺法会」ご先祖追善供養ご案内

○上海玉佛寺　覺醒法師ご来山

六月十五日、親交がある上海玉佛寺より覺醒法師ご一行が有馬管長を表敬訪問された。

大光明寺を訪問した玉佛寺御一行

有馬管長と談笑する覺醒法師

○観音懺法会

年中行事の一つの「観音懺法会」が、恒例により六月十七日午前七時半より厳修された。

本年は、相国寺の「声明」が方丈内に響く中、四年ぶりに法要参拝者もあり、荘厳な雰囲気につつまれた。

諸役は次の通り。

◆役配

導師　宗秀塔主（林光院副住職）
香華　泰量塔主（光源院副住職）
自帰　豊光大和尚
打磬　景山座元（養源院副住職）
太鼓　賢明東堂（是心寺住職）
大鈸　文紹座元（光照寺住職）
中鈸　宗健座元（長得院副住職）
小鈸　周真座元（慈雲院副住職）
維那　普廣和尚

坐禅会のご案内

本山維摩会（ゆいまかい）

◆毎月第二・第四日曜日開催
（※一月第二、八月第二・第四、十二月第四日曜日は休会です）
※行事等の為、予告なく休会することがあります。

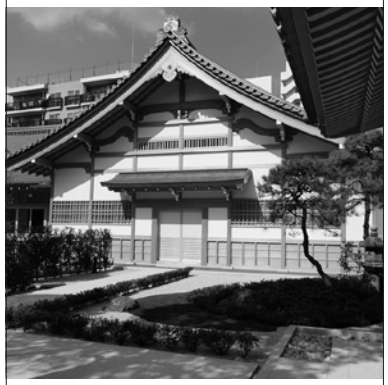
相国寺の維摩会は、明治時代に当時の第一二六世荻野独園（おぎのどくおん）住職が、主に在家を対象として始めた坐禅会であり、以来歴代の相国寺住職が指導にあたってきました。第二次大戦中より戦後昭和三十八年頃までは、相国寺塔頭大光明寺で開催され、それ以降は再び本山での開催となり、現在に至っています。

維摩会の名称の由来は、経典『維摩経（ゆいまきょう）』の主人公で、在家でありながら釈迦の弟子となった古代インドの維摩居士からつけられたものです。

会　場：相国寺　本山大書院
時　間：午前九時より十一時迄
内　容：坐禅（九時～十時半）
　　法話（十時半～十一時）
注意点：当日は八時五十分までに必ずお集まり下さい。十人以上で参加の際は、前日までに電話連絡をお願い致します。
（電話〇七五―二三一―〇三〇一）
先着順に受付し、満員の場合はやむなくお断りする場合もございますので、あらかじめご了承下さい。
威　儀：服装は楽でゆったりとしたものが望ましい。肌の露出が多い服やフード付きの上着、スカート、硬い素材（デニムなど）は避けて下さい。

東京維摩会（ゆいまかい）　再開いたしました

◆開催予定日（八月、十二月は休会です）
令和五年　九月九日（土）、十月十四日（土）、十一月十一日（土）
令和六年　一月十三日（土）、二月十日（土）、三月九日（土）
会　場：相国寺東京別院　方丈・客殿
時　間：午前十時半より十一時半迄
内　容：坐禅、茶礼
威　儀：服装は楽でゆったりとしたものが望ましい。肌の露出が多い服やフード付きの上着、スカート、硬い素材（デニムなど）は避けて下さい。（更衣室あり）
※最新の情報は、相国寺派ホームページをご覧いただくか、相国寺東京別院（電話〇三―三四〇〇―五八五八）までお問い合わせ下さい。


東京維摩会会場　方丈・客殿　玄関

TEL 03-3400-5858
会　　場：方丈・客殿
〒107-0062　東京都港区南青山6丁目13-12

教区だより

第一教区

○第一教区宗務支所総会

二月十三日、本山桂芳軒において、第一教区宗務支所総会が開催された。

第一教区各寺院住職、副住職、閑栖和尚計二十名が出席し、前年度会計報告、任期満了に伴う宗務総長選挙に関して協議が行われた。

第一教区宗務支所総会

○大光明寺「出町妙音弁財天春季大祭・巳の日法要」

四月二十二日、大光明寺（矢野謙堂住職）では飛び地境内の出町妙音堂において春の法要が執り行われた。妙音堂は伏見宮家ゆかりの弁財天画像を本尊としており、鎌倉時代後期の公卿、西園寺公衡（さいおんじきんひら）の娘、寧子が後伏見天皇にお輿入れの際に西園寺家より伏見宮家に移されたものである。

寧子は宮家の女御であり同時に光厳天皇と光明天皇の実母でもあった。また後伏見天皇が薨去された際に、その菩提を弔うため夢窓疎石を開山として伏見離宮の一隅に建立された寺が大光明寺であり、相国寺創建一三九二年よりも半世紀早い一三三九年（暦応二年）創建である。以来大光明寺は伏見宮家代々の菩提寺である。相国寺山内には元和元年（一六一五）に徳川家康によって移された。

出町妙音堂「巳の日」法要

拝殿前で法話する矢野住職

現在妙音堂では春の大祭と秋のお火焚祭が毎年行われており、コロナが下火になった令和四年のお火焚祭より、一般客もお参りに訪れている。五月十一日には第十一回己の日法要が開催され、当日は事前に希望された参拝客が一人ずつ拝殿に登壇し、住職より加持を受けた後、祈祷札を授かった。

○眞如寺　無外如大尼生誕八〇〇年記念「半僧坊大権現御開帳法要」

五月七日、眞如寺（江上正道住職）に於いて「半僧坊大権現御開帳と法要」が厳修され、合わせて四年ぶりに春の特別拝観も行われた。当日は雨模様であったが、豊光寺副住職、林光院副住職に出頭いただき、当山

眞如寺法堂内如大尼像前での諷経

半僧坊像を前に大般若経御祈祷法要を行う　撮影：柴田明蘭

勧請開基無外如大尼生誕八〇〇年を記念し公開された法堂内で、はじめに如大尼生誕八〇〇年の諷経をした後、圓通殿内で大般若祈祷が行われた。これに合わせて、文政五年（一八二二）寄進の大般若経六〇〇巻を入れる「経箱」十二箱の修復と大般若経を十巻ずつ綴じる「帙」の新調も行われた。

近年は境内のカキツバタの開花が早まっているが、青もみじと共に清涼な美しさを感じることが出来、雨天にもかかわらず多数の参拝者があった。

また五月二十八日からは、如大尼生誕八〇〇年に合わせて、相国寺承天閣美術館で「禅寺に伝わるものがたり―女性と仏教」展が開催され、無外如大尼をはじめ所縁ある宝鏡寺歴代の尼門跡（出家した皇女たち）関連の什物が出陳された。

第二教区

○教区総会

四月二十二日、無礙光院（阪口慈航住職・京都市左京区高野）において、第二教区総会が十一名の出席のもと開催された。

まず、今年度より宗会議員並びに宗務支所長が、竹林寺牛江宗道師から大應寺久山弘祐師に交代した。

当日は、諷経のあと会議が行われ、定期宗会の報告と、前年度の事業報告・会計報告がなされた。

無礙光院で行われた第二教区総会

第三教区

○瑞林寺夢窓国師毎歳忌

三月二十六日、瑞林寺（三重県津市片田井戸町長谷寺高山宗親住職兼務）では、開山毎歳忌を厳修した。

時折春雨が降り天候不順であったが多くの参詣者が参列し、本堂において佐々木家先祖供養並びに井戸町戦死戦没者追善供養の後、本堂前より夢窓国師生誕地記念碑に向かって大悲呪一巻を読誦して国師の遺徳を称えた。

当日列席した瑞林寺髙山住職以下関係者一同

第四教区だより

○壽奎寺斎会

十一月十日、壽奎寺（中川秀峰兼務住職）に於いて、先代住職の滝野宗育尼和尚の小祥忌法要を厳修した。法類寺院・檀信徒多数出席された。

雨中夢窓国師記念碑に向かって諷経を行った

○円福寺斎会

十一月十七日、円福寺（田中太眞住職）に於いて、先代住職田中耕宗和尚の十三回忌法要（コロナ禍の為一年延期）を厳修した。法類・縁故寺院・檀信徒多数出席された。

諷経する円福寺田中太眞住職（右前）ほか僧侶、関係者

○若狭相国会　役員会

十一月三十日、眞乗寺に於いて開催。今後の予定について協議した。

○宗務支所　支所会

十二月二十日、眞乗寺に於いて開催。宗会議員及び宗務支所長の改選を行った。

○若狭相国会　役員会

二月七日、眞乗寺に於いて開催。今後の行事について協議した。

○若狭相国会　役員会

四月十日、眞乗寺に於いて開催。令和四年度会計報告、令和五年度予算審議及び総会について協議した。

○養江寺斎会

四月十六日、養江寺（田中太眞兼務住職）に於いて、先代住職佐藤心契尼和尚小祥忌法要を厳修した。法類・縁故寺院・檀信徒多数出席された。

○宗務支所　支所会

四月二十五日、眞乗寺に於いて開催。定期宗会報告、令和四年度教区収支決算報告を行った。

○園松寺　逸見（へんみ）生誕祭

四月二十九日、園松寺に於いて開基逸見昌経公生誕五百年を記念して「大般若会」を厳修した。法要後には、本派江上正道教学部長（眞如寺住職）による昌経公生誕五百年記念「逸見祭によせて」と題した講話を拝聴した。

翌三十日には、高浜町郷土資料館春季特別展「伊藤若冲と若狭の禅僧」（四月二十四日～五月二十八日開催）の関連企画として、高浜町文化会館に於いて、矢野謙堂師（大光明寺住職）による記念講演「若冲と相国寺」が開催され多くの来場者があった。

（16ページ参照）

○若狭相国会　役員会

五月十日、眞乗寺に於いて開催。総会について検討した。

養江寺で導師を務めた眞乗寺木下雅教宗務支所長（右）

諷経をする僧侶、関係者

法要後に話をする園松寺本田真人師

第五教区

○雲州一派第二回住職会

一月三日午前十時より富田寺で開催。

主な議題として令和四年十二月に本山相国寺より届く令和五年二月六日付けで任期満了となる宗会議員と宗務支所長改選について協議をする。

○令和五年雲州一派年始会

一月三日、第二回住職会終了後に一派年始会を開催。

年始会参加者は、昨年同様に雲州一派ご寺院さま、出雲相国会三役並びに富田寺護持会三役で行いました。書院で新年の挨拶を交わした後、本堂に移り初月忌の御参りをする。

○出雲相国会・富田寺護持会合同三役会

一月三日、雲州一派年始会終了後に富田寺で開催。

出雲相国会役員が令和五年四月に行われる総会をもって任期満了となるため、出雲相国会の改選を主な議題に令和四年度会計監査及事業報告書等について協議をする。

○出雲相国会三役会

二月十五日午前九時より富田寺で開催。

出雲相国会第一回理事会、監査、総会等の日程について協議をする。

○出雲相国会理事会（令和四年度第一回）

三月七日午前十時より富田寺で開催。

この理事会では令和五年度の新役員改選を中心に話し合いを致しました。続いて令和四年度事業と会計の

令和５年度第四教区若狭相国会役員会

伊藤会長の発言を聞く参加者

第五教区出雲相国会理事会

出雲相国会理事会

報告後、令和五年度の事業と予算案を提示し、理事皆様の了承を得る。

○令和五年度第一回出雲相国会総会

四月二十日午前十時より富田寺で開催。

令和四年度第一回出雲相国会理事会を受けて令和五年度総会を開く。この総会で新役員の承諾を得て令和四年度事業・会計と令和五年度事業・予算が承認される。令和五年度より通常通りの事業を行う事となる。

令和五年度より三年間、新役員は左記の如くなりました。

会　長：島田　英明（本誓寺）新任
副会長：飯塚　明輝（西光寺）新任
会　計：内田　勝（富田寺）新任
監　事：勝部　徹（東光寺）新任
監　事：金森　大融（西光院住職）再任

出雲相国会総会

○令和五年度第一回三役会

五月十三日午前十時半より富田寺で開催。

新役員体制となり初めての会合は、早速今後予定される事業について喫緊に求められる案件を中心に議論をいたしました。六月に行う予定の理事会に議案を提出するため、坐禅会及び本山相国寺開山忌団体参拝等について骨子を作成する。

第六教区

四月二十四日、第六教区住職会が霧島観光ホテルに於いて、開催されました。

三月に相国寺に於いて開催された、定期宗会での事務等並びに相国会本部役員会の報告に続き意見交換が行われ、終了後に懇親会となった。

当教区は各寺院がとても遠距離なので、年一度の住職会を楽しみにしております。今年も有意義な住職会となった。

◆訂正のお知らせ

本誌第119号に次の誤りがありましたので、お詫びして訂正いたします。

62ページ本文5行目

（誤）松本憲融導師として

←

（正）松本昭憲住職の導師のもと

令和五年度（雨安居）相国僧堂 在錫者名簿

京都（相国）大通院徒　尾崎宗忍
東京（建長）東禅寺徒　滝本駿太
京都（相国）大通院徒　長尾謙伸

教化活動委員会活動報告

教化活動委員会委員長　佐分宗順

研修会

【現代問題研究】

京都仏教会との合同研究として、宗教の尊厳と信教の自由を確保した上でのキャッシュレス決算の可能性について具体的な内部研究を重ねてきましたが、その可能性について研究成果を発表していく予定です。

また旧統一教会問題で再燃した宗教法人法の見直し等、信教の自由、政教分離の原則を毀損するような動きに対して、他宗教団体とも連携して対応策を研究します。

【出版物のご紹介】

【現代問題】

『宗教法人非課税の根拠』

二〇二三年三月三十日発行　相国寺教化活動委員会・一般財団法人京都仏教会　宗教と社会研究実践センター共同編集

目次

第十一回研究会（令和四年五月十七日）於　相国寺承天閣美術館

境内建物・境内地に対する固定資産税の賦課問題

講師　櫻井圀郎　宗教法および宗教経営研究書所長・宗教と社会研究実践センター副所長

質疑　資料

第十二回研究会（令和四年九月十日）於　相国寺承天閣美術館

宗教法人非課税の根拠

講師　田中治　大阪府立大学名誉教授

質疑　資料

『相国寺史』第二巻　資料編中世二

相国寺史編纂委員会編　原田正俊・伊藤真昭監修

二〇二三年一月三一日発行

発行所　法蔵館　定価九〇〇〇円＋税

内容　応仁元年（一四六七）～永禄十年（一五六七）の史料を編年体にまとめて掲載

『相国寺史』第一巻・第二巻をお求めの際は、お近くの書店もしくは法蔵館へお問い合わせください。

●教化活動研修会『講義録』・『相国寺研究』（バックナンバーのご案内）

『相国寺研究』十二

『樋口琢堂と和敬学園

―大正～昭和戦前期仏教社会事業の実態』藤田和敏著

相国寺教化活動委員会　二〇二三年三月二十日発行

目次

第一章　樋口琢堂と「一日一善」

第二章　京都仏教護国団の発足と改組
第三章　和敬学園の創設と樋口琢堂の奮闘
第四章　戦時体制への移行と和敬学園

【新刊のご案内】

『相国寺研究』十三
『室町・戦国時代の相国寺領荘園』中井裕子著
相国寺教化活動委員会　二〇二三年八月発行

目次

第一章　相国寺領荘園の形成―足利義満期を中心に―
第二章　相国寺領荘園の運営実態について
第三章　相国寺塔頭の荘園―普広院領を中心に―
第四章　相国寺領荘園の衰退から太閤検地まで

過去に発行した各講座および研修会の『講義録』をご希望の方は、一冊につき手数料一千円を添え、左記の相国寺派宗務本所内教化活動委員会宛にお申し込みください。
各講座の参加申し込みや既刊の『講義録』リストは、相国寺派ホームページの「資料室」・「書籍案内」をご覧ください。

◆**申込先**　相国寺教化活動委員会
〒六〇二―〇八九八　京都市上京区今出川通烏丸東入相国寺門前町七〇一
電話　〇七五―二三一―〇三〇一　FAX　〇七五―二一一―三五九一
ホームページ（https://www.shokoku-ji.jp）

古寺を知れば、ニッポンはもっとおもしろい

34号 相国寺と承天閣美術館

足利義満による創建以来、江戸時代まで最先端の文化センターであり続けた相国寺。雪舟が学び、若冲が通った禅刹に、五山文学と日本美術の名品を訪ねる。長さ80cmの4つ折り引き出しページには、表面に伊藤若冲の『釈迦三尊像』、裏面に円山応挙の『七難七福図巻』を大きく掲載。

好評発売中！
価格：770円（税込）

小学館ウイークリーブック
隔週刊 古寺行こう 全40巻
小学館

『隔週刊 古寺行こう』は、全40巻で全国の名刹・寺宝を紹介する隔週刊誌。
ただいま絶賛刊行中です。
バックナンバーも含め、お近くの書店にてお買い求めください。

お問い合わせ　小学館パブリッシング・サービス通信販売係　0120-494-656　0120-464-290
（月～金9:30～17:30）※土・日・祝休日を除く

相国寺史編纂室だより ―室町時代の相国寺領荘園―

相国寺が室町時代に繁栄していたことは、よく聞かれると思います。その繁栄を支えていたのが荘園です。荘園とは、天皇家・貴族・幕府、そして大寺社が所有していた大規模な所領のことです。室町時代の相国寺やその塔頭も、一番大きな経済基盤となっていたのが荘園からの収益でした。

相国寺は、整然とした水田が広がり品質の良い米をたくさん生産していた河内国玉櫛庄や、大きな建物にも使用できる良質な木材を産出した美作国富美庄など、生産力が高く大きな年貢収入が得られる荘園を保持していました。最盛期には四十ヶ所くらいの荘園がありました（『蔭涼軒日録』延徳二年〈一四九〇〉正月二十三日条）。それとは別に、塔頭もそれぞれの荘園を何ヶ所も持っており、その収入が塔頭の財政を支えていました。

応仁の乱前には相国寺衆が八百人いたと言われています（『蔭涼軒日録』文明十八年〈一四八六〉七月十三日条）が、荘園からの収益によって、たくさんいた相国寺僧・職員の生活費など、寺院運営のための必要経費が賄われていたのです。

相国寺や塔頭の荘園は、京都周辺だけでなく、東海・北陸地方や中国地方など京都から離れたところでも多く見られました。それでは、遠方の荘園はどのように管理したのでしょうか。

相国寺は、荘園の現地に自分たちの組織の人間を派遣して管理する直務という方式で、荘園を運営していました。禅宗寺院では寺院の経理など寺内の経済面を担当する東班衆がおり、会計事務や徴税に長けていました。その東班衆のなかから荘園の管理・運営にあたる庄主を選出しました。相国寺領の庄主の決定には、将軍が口入する場合もありましたが、基本的には相国寺住持と各塔頭の院主クラスの僧で構成される評定衆による評議によって決定していました。

庄主は荘園のある場所に赴き、現地スタッフを指揮して年貢を回収し、その年貢を京都に運搬して相国寺・塔頭に届けました。庄主は年貢の一部（十分の一から五分の一程度）を報酬として受け取りました。凄腕の庄主は、近隣の荘園の代官も兼ねて年貢回収を請け負い、そこからも収入を得ることで多くの財を成したものもいたのです。

この話の詳細は、教化活動委員会研修会の講義録『室町・戦国時代の相国寺領荘園』として、今夏刊行されます。この講義録には、相国寺領荘園の成り立ちや、応仁の乱後、荘園からの収入が減少し厳しい経営を迫られた相国寺の話なども載せていますので、ご興味を持たれた方はぜひ御覧ください。

（相国寺史編纂室研究員　中井裕子）

大本山相国寺御用達

御法衣・仏具

(株)後藤利法衣店

〒604-8273 京都市中京区西洞院通三条上ル
電話（075）221-4587
FAX（075）223-0094
フリーダイヤル（0120）014587

大本山相国寺御用達

社寺建築 **(株)北村誠工務店**

〒603-8225
京都市北区紫野南船岡東町45
電話京都（075）441-0563
FAX京都（075）441-0571

大本山相国寺御用達 文化財堂宇修復保存

社寺建築
数寄屋建築　設計・施工

澤甚株式会社 澤野工務店

SAWANO

本　社
〒605-0069 京都市東山区東大路通知恩院前上ル2筋目東入
TEL(075)561-5394(代) FAX(075)533-3775
山科事務所・工房
〒607-8126 京都市山科区大塚元屋敷町62 TEL(075)541-1257(F)

大本山相国寺御用達

庭園　設計・施工

樋口造園株式会社

〒602-8341 京・上京区七本松通中立売下ル三軒町77
電話（075）462-1385
FAX（075）464-6120

天和三年創業　**大本山相国寺御用達**

簾 安田念珠店

〒604-8072
京都市中京区寺町六角角
TEL（075）221-3735
https://ssl.yasuda-nenju.com/

大本山相国寺御用達

精進料理

矢　尾　治

〒600-8486 京都市下京区高辻堀川町358
電話（075）841-2144
FAX（075）841-2110

夢のある空間づくりのパートナー

トータルディスプレイ 企画・設計・施工・管理
TOTAL DISPLAY
FUSHIMI KOHGEI
株式会社 伏見工芸

［本　社］ 〒612-8009 京都市伏見区桃山町見附町11番地
TEL 075-621-2833 FAX 075-611-5465
［宇治工場］ 〒611-0041 京都府宇治市槇島町吹前15番地
TEL 0774-23-9255 FAX 0774-23-9254
e-mail:fushimi_@d1.dion.ne.jp

貴重な御法衣の御用は
大本山相国寺御用達

後藤新助法衣仏具店

〒616-8041 京都市右京区花園寺ノ前町30番地
電話(代表)（075)462-3915番
ファクシミリ（075)462-3616番
URL https://www.rinzai.jp
E-mail : rinzai@rmail.plala.or.jp

Future Active Advance

officeやまと

パソコンからネットワーク・サーバ構築まで
IT環境のトータルアドバイザ

本　社 〒604-8842 京都市中京区壬生土居ノ内町19-13
TEL：075-311-9000　FAX：075-311-9494
中央支社 〒615-0846 京都市右京区西京極徳大寺団子田町29-62
TEL：075-322-0110　FAX：075-322-0770
E-Mail：info@office-yamato.net

創業明暦年間

登録商標 七味家

〒605-0862 京都市東山区清水二丁目221
TEL(075)551-0738／FAX(075)531-9352
0120-540738（ゴヨウハシチミヤ）
9:00～18:00(冬季は9:00～17:00)
https://www.shichimiya.co.jp/

こころをつたえる

和文具 和雑貨

株式会社 表現社

〒602-0861
京都市上京区新烏丸通り荒神口南入る
TEL:075-222-1345／FAX:075-222-1354
https://hyogensha.net/

三楽税理士法人

代表税理士 奥谷昌雄
代表税理士 内藤　誠

〒602-8026
京都市上京区新町通椹木町上る春帯町340番地
TEL(075)256-2551　FAX(075)255-7461

式典写真、風景写真など
あらゆるニーズにおこたえします！

柴田明蘭 写真事務所

（公益社団法人）JPS 日本写真家協会 会員
☎090-8387-7735
FAX 075-311-9369
〒615-0057
京都市右京区西院東貝川町24 シェルブリュー四条603

TDS

寺社の電気、空調、防犯、防災設備

有限会社 土橋電気設備

〒606-0953 京都市左京区松ヶ崎海尻町4番地4
まちゃまちゃ105号
TEL 075-703-6331　FAX 075-703-6332

雅料 温故知新を織る…

株式会社 龍村美術織物

URL:https://www.tatsumura.co.jp/
関西店 〒615-0022 京都市右京区西院平町25
ライフプラザ西大路四条2階
TEL (075)325-5580　FAX (075)325-5606
関東店 〒104-0031 東京都中央区京橋2－8－1
八重洲中央ビル5階
TEL (03)3562-1212　FAX (03)3562-1230

お越しいただくあの方の為に
あなたの想いの一番近くに

イベント設営・レンタルの京老舗

有限会社 テラヲ貸物店（てらおかしものてん）

075-414-1464
office@terao-rental.com
https://www.terao-rental.com

広く
深く
つなぐ

創刊明治30年 宗教専門紙

中外日報

https://www.chugainippoh.co.jp

購読・試読サービスのお申し込みは

0120-015-177

京都本社 〒601-8004 京都市南区東九条東山王町9 TEL.075-671-4800
東京支社 〒113-0033 東京都文京区本郷4-9-13 TEL.03-3816-4721

JTB 感動のそばに、いつも。

JTB京都中央支店 TEL. 075-284-0173

〒600-8421 京都市下京区綾小路通烏丸西入童侍者町 167 AYA四条烏丸ビル 2F
営業時間 9:30～17:30／土・日・祝日・年末年始休業

大本山相国寺御用達
寺社庭園・町屋庭園・露地庭
作庭 管理
長岡造園

〒616-8305 京都市右京区嵯峨広沢御所ノ内町13-3
電話(075)872-0005 FAX(075)872-0004
HP:nagaokazouen-kyoto.com

大本山相国寺御用達
京仏具・仏壇

株式会社 佛光堂

〒600-8033
京都市下京区寺町通仏光寺下る
(四条寺町、南へ200M、西側)
TEL(075)351-4092 FAX(075)351-7231

大本山相国寺御用達
京都市指定
有限会社 丸水設備工業

●上下水道衛生設備 ●ポーリング井戸 ●消火栓設備
●庭園池の濾過設備 ●お墓の雨水処理 ●設計施工

〒603-8354 京都市北区等持院西町32
TEL(075)462-8888(代) FAX(075)462-8998

受け継がれるご奉仕の心を大切に
土産品 記念品
オリジナル商品をお創りします

ACT MIYAKO 株式会社 アクトみやこ

〒615-8083 京都市西京区桂艮町15-24
TEL.075-634-5084 FAX.075-634-5085
E-mail:taichi-matsuo@actmiyako.co.jp

京名物 夷川五色豆
京銘菓 月しろ

創業明治17年
京都 夷川
豆政

京都市中京区夷川通柳馬場西入六丁目264
TEL 075-211-5211 FAX 075-211-4520

大本山相国寺御用達

深草瓦師 寺本甚兵衛

(株)寺本甚兵衛製瓦

〒612-0873 京都市伏見区深草瓦町 20
電話（０７５）６４１－０２８７
FAX（０７５）６４１－９７７１

京菓子司
千本玉寿軒

〒602-8474
TEL:075-461-0796 FAX:075-464-6717
京都市上京区千本通今出川上ル上善寺町 96
http://sentama.co.jp/

ブライトホール
家族葬専用 別邸

公益社
0120-004-200
24時間365日対応 無料相談

www.shoyeido.co.jp

香

大本山相国寺御用達

香老舗 松榮堂

京都本社／京都市中京区烏丸通二条上ル東側 TEL 075-212-5590 FAX 075-212-5595
東京支店／東京都中央区日本橋人形町 2-12-2 TEL 03-3664-2307 FAX 03-3639-4969
札幌支店／札幌市中央区南８条西 12 丁目 3-6 TEL 011-561-2307 FAX 011-563-3502

京都本店　産寧坂店　京都駅 薫々　嵐山香郷　大阪本町店　銀座店　人形町店　横浜店　札幌店

YPG

ヨシダ印刷株式会社
株式会社ヨシダ洋紙
ワイピービズインプルーブ株式会社

貯める、運用する、借り入れる、積み立てる、備える、管理する･･･
京都銀行は、人生のさまざまなシーンで皆様を応援します。お気軽にご相談ください。

飾らない銀行
京都銀行

ANA CROWNE PLAZA KYOTO

世界の歴史都市、
京都の中央に位置し、
世界文化遺産「二条城」の前に佇む
ANA クラウンプラザホテル京都。

ANAクラウンプラザホテル京都
〒604-0055 京都市中京区堀川通二条城前
Tel 075-231-1155
www.anacpkyoto.com

御法衣・御袈裟・御水引・戸帳・打敷

華蔓・御晋山式用品一式・稚児装束

大本山 相国寺御用達

橘兵　草木兵助商店

〒604-0024　京都市中京区衣ノ棚通御池上ル西側
電話（075）221-0934番　振替京都01090-4-3476

大切な文化財を始め、建物の安全と安心の為努力しています

電気設備工事・消防設備工事

ADACHI 足立電気工業株式会社

〒601-8045
京都市南区東九条西明田町34-21
TEL 075-681-4461　FAX 075-681-9767
E-mail：adachi-d@guitar.ocn.ne.jp

抹茶

全国並びに関西茶品評会第一位
自園茶 農林水産大臣賞31回受賞

有馬頼底管長御好

御濃茶　萬年乃翠（まんねんのみどり）

御薄茶　常光（じょうこう）

大本山相国寺御用達

宇治 久 小山園

京都府宇治市小倉町寺内八六番地
お問い合せ（〇七七四）二〇・〇九〇九
●西洞院店　茶房「元庵」水曜休祝営業
京都市中京区西洞院通御池下ル
電話（〇七五）二二三・〇九〇九
●ジェイアール京都伊勢丹店 地下一階
●京都高島屋店 地下一階 和菓子売場
▌お取り扱い▌全国有名茶店・茶道具店
www.marukyu-koyamaen.co.jp

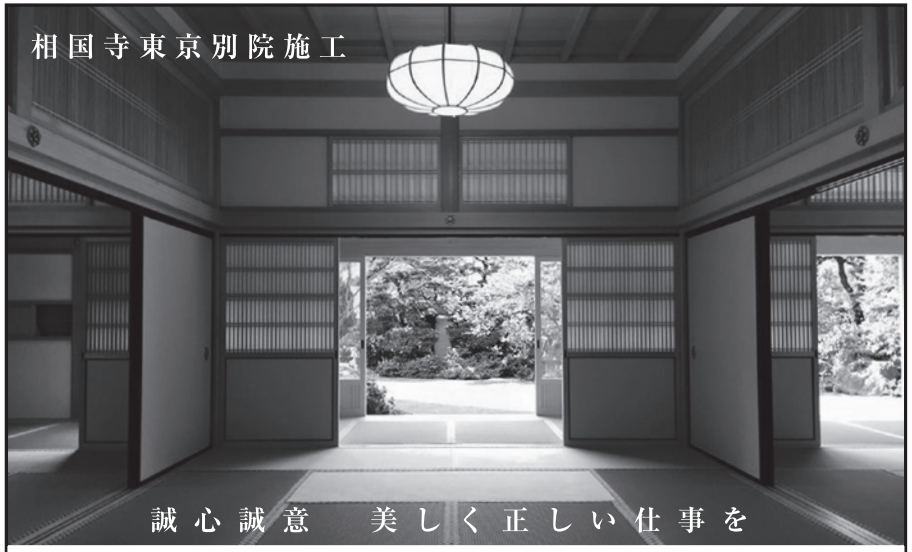
大本山相国寺御用達・大涅槃図保存修理

文化財保存修理・文化財デジタル複製・文化財 IPM 調査・文化財調査
一般表具・絵画企画製作・漆 / 金箔施工工事・襖紙 / 御殿引き手発売元

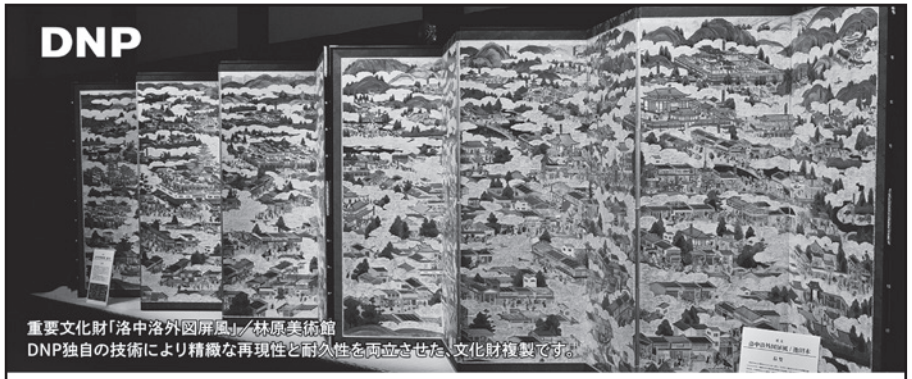
京表具　浩悦庵（こうえつあん）

古文化財保存修理研究所　（有）矢口浩悦庵

本社・工房
〒602-8025 京都市上京区衣棚通り丸太町上る今薬屋町 318 番地
TEL(075)254-6021（代）/FAX(075)254-6022
www.koetsuan.com 東京営業所 Tel(042)442-0177



株式会社 水澤工務店
東京都江東区木場５丁目６番地１号
TEL 03-3641-7111
URL www.mizusawa-inc.co.jp



歴史を未来につなぐ技術。

私たちは、これまで培ってきた印刷技術と情報技術を生かし、
かけがえのない文化遺産の保存と継承に貢献しています。

DNPenguin

未来のあたりまえをつくる。　大日本印刷株式会社

皆さまのお役に立てる、
コインパーキング。

着実に、一歩一歩。

キョウテク株式会社

本社
TEL 075-365-8000　FAX 075-365-8080
〒600-8172　京都市下京区下平野町483番地1

相国寺御用達　北山金閣寺御用達　東山銀閣寺御用達

五紋

享保十一年創業　清酒「五紋神蔵」醸造元
松井酒造株式會社
京都市左京区吉田河原町１の６　電話 075（771）0246

MIZUHO

お客さまから最も信頼される、
そして選ばれる証券会社へ

私たちは、〈みずほ〉が目指す、
「総合金融コンサルティンググループ」の唯一の総合証券会社として、
金融に関する高い専門性や質の高い商品力に磨きをかけることで、
お客さまに最良のサービスを提供できるよう、
全力で取り組んでまいります。

みずほ証券

京都支店 TEL.075-231-8881
〒600-8008 京都市下京区四条通烏丸東入長刀鉾町20 みずほ銀行京都支店2階

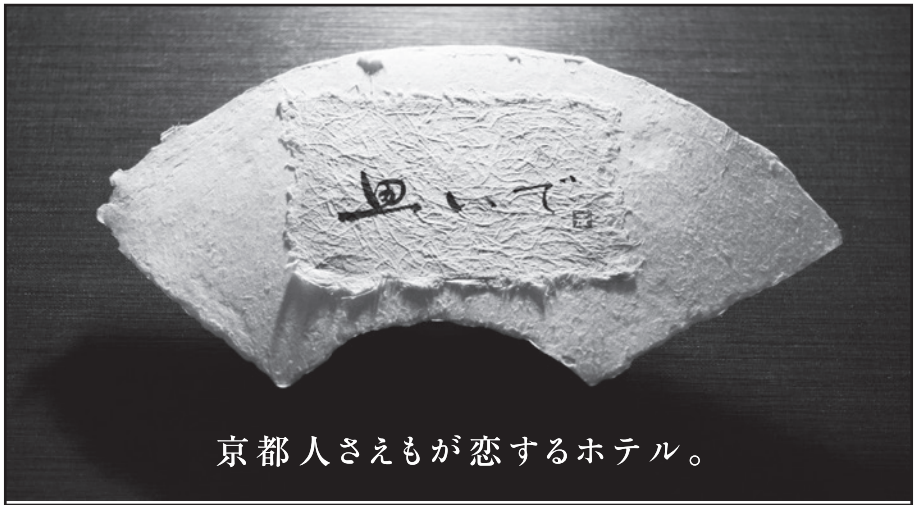
株式会社 竹中工務店

建物の総合管理（警備・清掃・設備・植栽）

抗菌・抗ウイルスの効果が持続する薬剤
KYOHPARA Alivio
販売をいたしております。

SARS-CoV-2（新型コロナウイルス）を対象とした
反応検査で不活性化を確認できました。

都総合管理株式会社
京都市上京区堀川通中立売上ル福大明神町119番地の1
TEL：075-415-0001　FAX：075-415-1155



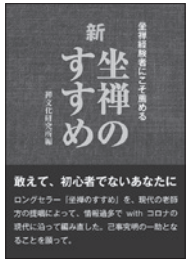
京都人さえもが恋するホテル。

BRIGHTON KYOTO
〒602-8071京都市上京区新町通中立売（御所西）
TEL.075-441-4411（代）　FAX.075-431-2360
https://kyoto.brightonhotels.co.jp/

禅のことをもっと……

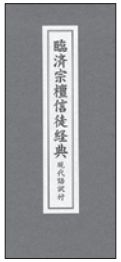
あなたが信仰されている臨済宗・黄檗宗の教理や歴史について、もっと知りたくありませんか？ 禅文化研究所では入門書から専門書まで幅広く発行いたしております。

おすすめ本のご紹介



新 坐禅のすすめ
定価 1,320 円

維摩経 ファンタジー
定価 1,430 円



臨済宗檀信徒経典
定価 715～880 円
（数量によって価格変更あり）

季刊『禅文化』
年間購読料
5,280 円

書店やネットでも購入できます。価格はいずれも税込みです。

お申し込み、お問い合わせは下記まで

公益財団法人 **禅文化研究所**
〒604-8456 京都市中京区西ノ京壺ノ内町 8-1 花園大学内
メール : sales@zenbunka.or.jp
TEL 075-811-5189
FAX 075-811-1432

●編集後記●

◇暑中お見舞い申し上げます。全国の相国会会員諸氏をはじめ本派各ご寺院、関係各位の皆様、お変わりなくお過ごしでしょうか。去る５月８日よりコロナウイルス感染症が５類に移行しました。自粛や中止をしていた行事の完全再開、復活などで、皆様の周りでコロナ禍以前の賑わいを取り戻している所もありましょう。もちろん未だ油断できる状態ではありませんが、おかげさまで『円明』第120号を発刊することが出来ました。原稿、写真、広告等をお寄せいただいた皆様に御礼申し上げます。

◇石川県能登地方をはじめ、規模の大きな地震、風水災害等が各地で続いておりますが、この１年に被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。

◇相国寺派では各教区宗務支所長、宗会議員、本派宗務本所員の任期満了に伴い、新春より順に改選が行われました。各教区は２月より、宗務本所と大本山相国寺は５月１日付で佐分宗務総長の下、新内局発足となりました。前任の各和尚様には心より御礼申し上げます。昨期はまさにコロナウイルス感染症蔓延と共に過ごした３年間であり、行事の中止、延期を余儀なくされましたが、本誌『円明』や研修・拝観などを通じて布教伝道、研鑽を重ねてまいりたいと思いますので、引き続き何卒宜しくお願い致します。

◇また５月24日には相国会本部役員会を開催し、今秋の「相国会本部研修会」開催、10月21日「開山忌」団体参拝のご案内などが決定いたしました。研修会の詳細は次のページをご覧いただき、相国会会員の皆様の参加をお待ちしております。また相国寺坐禅会に引き続き、東京別院坐禅会も再開しましたので、坐禅会の案内ページを合わせてご覧ください。そして相国寺派の教義、宗風を記した『私たちの宗旨』を発行することも決定し、今年度中に本派各寺院、相国会会員に配布する予定です。

◇急速に広がりを見せるAIと呼ばれる人工知能の事が連日話題になりますが、長年にわたって根付いてきた仏教の精神や法要行事、そして僧侶の存在がこれからの社会にも必要とされるべく私たちは模索をしていかねばなりません。そこには人工知能の答えにはない「菩提心」や「真理」があるはずです。

◇本誌がお手元に届くころにはお盆を迎えます。皆様もお施餓鬼法要や墓参、あるいは菩提寺和尚様のお参りを通じて、御先祖様の存在にあらためて感謝の心を持ち、合掌いたしましょう。暑さ厳しい折、どうぞ御自愛ください。

（江上正道　記）

円明（えんみょう）
令和5年（2023）夏号（第120号）
令和5年（2023）8月1日発行（年2回）

編　集／相国寺派宗務本所　教学部
発行所／大本山相国寺・相国会本部
〒602-0898 京都市上京区今出川通烏丸東入相国寺門前町701　TEL075-231-0301　FAX075-212-3591
URL https://www.shokoku-ji.jp　E-mail kyogaku@shokoku-ji.jp（教学部）
制作・印刷／ヨシダ印刷株式会社　カット／BUN

『円明』誌は、環境にやさしい「水なし印刷」「Non-VOCインキ」で印刷しています。

5年ぶりの開催

第27回「相国会本部研修会」開催のお知らせ

［開催日］令和５年 10月12日（木）～13日（金）

参加資格

相国会会員（相国寺派寺院檀信徒）

募集定員

25名
（今回は、感染症対策のため宿泊施設を利用します）

主な研修内容

初　日	相国寺拝観、坐禅研修、承天閣美術館「若冲と応挙」展見学
２日目	龍安寺、鹿苑寺（金閣寺）特別拝観

申込期日・方法

申込締切：９月25日（月）

各菩提寺を通じて、申込用紙にご記入の上、お申し込みください。

［問い合わせ先］
相国会本部 相国寺派教学部
TEL 075-231-0301
E-mail kyogaku@shokoku-ji.jp

相国寺 秋の特別拝観

令和5年9月26日(火)～12月10日(日) 拝観時間：午前10時～午後4時

※10月18日(水)～21日(土)は、開山忌法要のため拝観を休止いたします。
※10月3日(火)、4日(水)、5日(木)、12月8日(金)は法要・行事のため拝観時間に一部変更があります。

拝観場所：法堂・方丈・開山堂

拝観料：一般・大学生 800円／65才以上・中高生700円

※団体割引有り　※法要・行事のため予告なく拝観休止または拝観場所・拝観時間を変更することがあります。

法堂内「蟠龍図」

法堂
撮影◎柴田明蘭

北山だより

鳥瞰図の新調について

鹿苑寺は、鳥瞰図（境内案内図）を二十年ぶりに新調いたしました。境内の整備で変更された参拝順路や見どころがより正確に、見やすく描かれております。また、撮影スポットの紹介も増やし、以前よりわかりやすくなっております。

木枠も、洗いをかけて二十年分の汚れを落として、見違えるほどきれいになりました。新調された鳥瞰図では、金閣舎利殿を中心に整備された鏡湖池前の踊り場に続く参拝路の変更や浄蔵貴所塔の明記の他、庫裏、夕佳亭、不動堂などの建物の位置や大きさのバランスを整えました。

制作を依頼したのは文化財保存修復を手掛ける川面美術研究所で、時間をかけ、何度も打ち合わせを重ねて完成に至りました。

新型コロナウイルスへの対応が変わり、参拝者も徐々に増えてきております。ガイドの方々は、真新しい鳥瞰図を前に外国人観光客や修学旅行の生徒たちへの説明もしやすくなったとおっしゃっています。参拝をされるにあたり、この鳥瞰図を役立てていただけますと幸いです。

鳥瞰図

東山だより

特別拝観再開

慈照寺では、新型コロナの影響により開催を見送っていた春期特別拝観を三年ぶりに再開いたしました。

今回は久々の開催であったことに加えて、新たにガイド協会さんに案内業務をお願いすることとなり、受付準備からご案内の実際までの細々な手順をお寺とガイド協会さんとが手探りで取り組んだ特別拝観となりました。普段は公開していない本堂・東求堂・弄清亭の内部を拝観いただくことができ、幸い天候にも恵まれたこともあって、三月二十一日～五月七日の開催期間中、約三千人の方に拝観いただきました。

また、慈照寺とのご縁を結んだ証でもある特別御朱印も、多くの皆さまに手にしていただくことができました。拝観初日の頃は例年より早い桜の開花を迎え、朝晩は冷え込むような気候でしたが、季節も移ろい、山笑う春から最終日の頃には瑞々しい若葉を揺らす風はいつしか初夏を感じるものと変わっていました。

この度の取組みを振り返り、次回開催に向けてさらに充実した特別拝観として参りたいと思います。

哲学の道周辺のご案内

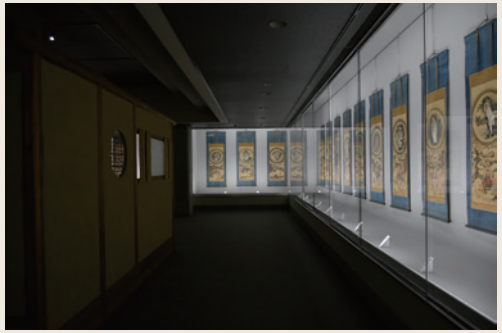
境内のご案内

特別拝観中の東求堂

「禅寺に伝わるものがたり」展

Ⅰ期　二〇二三年三月十一日（土）～五月七日（日）
Ⅱ期　二〇二三年五月二十八日（日）～七月十六日（日）

Ⅰ期展示風景



イベント風景

二〇二三年三月十日相国寺承天閣美術館にて「禅寺に伝わるものがたり」展の記者内覧会を行いました。

また、当館学芸員により四月一日（土）、五月六日（土）にはスライドトークを五月三日（水・祝）には講座を開催いたしました。

当館学芸員によるスライドトークと講座の様子。

次期展覧会予定

「若冲と応挙」展

Ⅰ期　二〇二三年九月十日（日）～十一月十二日（日）
Ⅱ期　二〇二三年十一月十九日（日）～二〇二四年一月二十八日（日）
※年末年始の為、十二月二十七日～一月五日の間は休館。

［主催］　相国寺承天閣美術館
　　京都新聞
［協賛］　一般財団法人 萬年会
　　鹿苑寺
　　慈照寺
［拝観料］　一般八〇〇円
　　六十五歳以上六〇〇円

相国寺承天閣美術館事務局

七難七福図巻　円山応挙筆

重要文化財　三巻　相国寺蔵

附　祐常筆下絵一巻、応挙筆画稿二巻

七難七福図巻　天災巻（地震部分）　円山応挙筆
重要文化財　三巻のうち一巻　紙本著色　江戸時代　明和五年（一七六八）　相国寺蔵
※左上に犬が加えられている

相国寺派の寺院には、伊藤若冲をはじめ近世の在京の絵師たちの作品が数多く残されています。円山応挙（一七三三～九五）もその一人です。例えば、慈照寺に伝来する釈迦十六善神像は、応挙五十四歳の年に描き、慈照寺に寄進されたことが箱書きに記されており、応挙の数少ない仏画として、非常に重要な作品となっています。

その応挙の才能をはやくから見抜いて庇護していたのは、滋賀の円満院の祐常法親王（一七二三～七三）でした。現在相国寺に所蔵されている重要文化財、七難七福図巻は、祐常の指示のもと、制作された傑作です。『仁王経』という経典に説かれた災いと福を当時の風俗で描き出したものです。三年の歳月をかけて、三十六歳の応挙が完成させました。全三巻で天災巻、人災巻、福寿巻という構成です。画面に写っておりますのは、十六メートル近くに及ぶ天災巻のうち、地震を描いた場面です。

実はこの絵巻、応挙が一から構図を考えたわけではなく、祐常によって下絵で具体的な指示がありました。左上の画像が祐常の指示書です。短い場面ですが、祐常は次に書き足すべし、と記して、次の場面に移ります。そして応挙はより長い場面にして、下絵を作り上げています。下の絵が祐常の指示をうけて応挙が作成した画稿です。逃げ惑う人数も増え、カラスが不気味に飛び、ざわめいた雰囲気となっております。

そして完成品と下絵を見比べると、面白い相違点が浮かび上がってきます。画稿と比較すると、完成品には左上に犬が加えられています。拡大すると犬が二匹おり、一匹は地震で目を回してしまったのか倒れています。犬が二匹、という要素は実は、はじめに祐常が記した下絵では、右側に描かれており、ここに応挙の細やかな配慮がうかがえます。また、応挙は犬をよく描いており、相国寺開山堂にも応挙やその息子応瑞が仔犬の杉戸絵を描いています。

依頼者側の指示書の下絵、それを受けた絵師の画稿、そして完成した大作絵巻を秋の「若冲と応挙」展第Ⅰ期に展示いたします。ぜひ、実際の作品からその制作意図をたどってください。

作品解説／承天閣美術館　学芸員　本多潤子

拡大図

七難七福図巻　天災巻　下絵（地震部分）　祐常筆
一巻　紙本墨画　江戸時代　相国寺蔵

拡大図

七難七福図巻　天災巻　画稿（地震部分）　円山応挙筆
二巻のうち一巻　紙本墨画　江戸時代　相国寺蔵

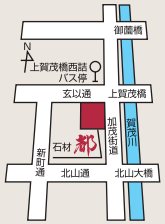
永遠（とわ）の安らぎ　―石のカウンセラー―

株式会社 石材 都（みやこ）

相国寺供養墓

Co., Ltd 都 STONE

社長 吉田健次



正月以外無休　営業時間／AM8:30～PM6:00（日曜日PM5:00まで）

本　社：〒603-8103
京都市北区小山北玄以町24番地　電話(075)491-4114(代)（ヨクゾ ヨイイシ）
（上賀茂橋西詰バス停前）

工　場：京都市北区上賀茂神山389番24　電話(075)702-2440
（洛北病院バス停前）

御一報次第、遠近を問わず参上いたします。

心のすがた

曹源一滴水（碧巌録）

曹源（そうげん）の一滴水（いってきすい）
一滴の水から
世界を潤（うるお）す

相国寺 手水舎　撮影◎教学部